

八百八十五号

損得(と)と舌切雀。

夫よりチョツくと御宿へ

花の枯木は花を咲せしむ

灰あふ箱の中、本妻のいんどん發の

目子へ入り。あは菌からあちく山

脊中の紫屋と胸とが狭く、蕃椒味噌の辛らき

目よあつて主人ぞよの素園子と日本一の趣向を

老へお供はつゝも現在の娘も心の鬼を島納戸の

岩屋へ忍び入り、起んとせんとあせりと重い

晉筆の白布とあ、尻とのせ、子動させん

其間上翁ハ何處ヘからかニをアと福ト

夜着を子のけ。應を義の毛引ひり。

兎杓指出以室物手ふ入とたりと笑栗の

鍔の作りは木太刀といふ派の奥目で押

込でどう
敵を仕とめたる夫より

しちヶふりなごとい 豈馬麻く

一さ願をらけや

霞亭乙湖述

一薰齊芳樂

人形
具足屋
渡辺彫栄